

みみょう幼稚園だより



あっといいう間の一か月、されど貴重な一か月



4.9 年少さんをお部屋に連れて
いってくれる年中さん

早いもので、新年度が始まってから、あっといいう間に5月を迎えます。新しいお友だち集団、初めてのお部屋、そして担任の先生との出会い…。4月からの環境の変化は、子どもたちにとって、本当に緊張の連続で、疲れも出てくるころだと思います。「今日はお当番なんだ」と誇らしげに当番ワッペンを見せてくれる年長さんも、手提げ袋を引きずりながらも張り切って階段を上っていく年中さんも、みんな、一人ひとりの小さな胸の内では、どきどきしたりハラハラしたり連続だと思います。特に年少さんの中には、初めてお父さんやお母さんから長時間離れて過ごすことになったお子さんも決して少な

くはないでしょう。生まれて初めて味わう試練に立ち向かっているといっても過言ではありません。「お母さんがいい、お家がいい」と泣いて訴える姿は当然の姿であると、先生たちは笑顔で温かく抱きしめながら、しかし、毅然として、しっかりと受け止めています。そして、そうした日々の中で、子どもたちは確実に成長をできています。

先日、今年度最初の4月のお誕生会に年少さんも参加して、みんなでお祝いをしました。大勢が集まった時のお約束は「口を閉じて」「しっかりと話をきく」という園長の話に、みんながしっかりと反応し、聞いてくれました。また、先生たちが楽しい劇をしながら投げかけた「あいさつ」「おかたづけ」「なかよくあそぼう」に対しても、あるべき姿を口々に答えてくれました。年少さんは、年長さんや年中さんの姿や反応を目の当たりにすることで、初めての感覚、心の動きを経験したにちがいありません。また、年中さん、年長さんも同様で、そのひとときの経験が、必ず自らの感覚や行動へと発展していくことでしょう。幼稚園で様々な場所で、たくさんのお友だちや先生たちと時間を共有していくことは、本当に大切な学びの積み重ねとなっていきます。すべてを終えてホールからお部屋に向かう子どもたちの姿は、ほんの数十分前に入ってきた時とは明らかに成長をしていました。お帰りの準備をする時にも、お誕生会で教えてもらった衣服のたたみ方を、早速実践している子どもも多かったです先生たちの報告もありました。

4.12 真剣にグループ決めの話
し合いをしている年長さん



あらゆる教育機関や教育的環境は、子どもたちがやがて一人の人間として自立し、社会を形成する一員となるための力をつけていくことを目指しています。乳幼児期はさらにその前段階の土台づくりをする重要な期間となります。幼稚園での一日一日ほど、子どもたちの成長を実感できる時期はありません。保護者の皆様と、小さな変化や成長もしっかりと共有しながら、喜びあいながら、このかけがえのない期間を大切に過ごして参りましょう。保護者の皆様にとりましても、どきどきハラハラの4月だったと思います。一年のスタートに当たり、本当にたくさんのご協力いただきました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。 園長